

ちなみに、

きみちゃんです。この夏、わたしは田皆のお祭りで司会をしたり、ふるさと夏祭りのパレードで盆踊りをしたり、「学校にとまろう!」というスクールキャンプを企画したり、ケイビングに挑戦したり...えらぶで過ごすはじめての夏を満喫しました!みなさんはどんな夏を過ごしましたか?



「沖永良部のために私達にできることはありますか?」
これは七月に沖永良部高校の立志塾に講師として出席したときの沖永良部からの質問票にあった一文です。他にも同じような質問がたくさんあって、わたしはとてもうれしくなりました。えらぶの子どもたちには地域に貢献したいという気持ちがいっかりと育っています。えらぶの人と人とのつながりがこういう気持ちで育んできたんだらうなあと思うと、今、自分がそんなすてきな島にいることをとても誇りに思います。

では、そんなすてきな島の地域おこし協力隊としてわたしにできることってなんなんだろう?高校生が地域に貢献したいと思う、ているのを差し置いてヨリ者のわたしが地域おこしをするってなんだかちよっと変じゃない? そんな疑問がふつふつとわいてきて、はっとひらめきました。みんなの『貢献したい』という想いを想いだけで終わらせずにきちんとカタチにしていくサポートだったら、東京で中高生の活動支援をする仕事をしてきたときの経験を活かすことができるはず!

二〇二〇年の教育改革で日本の教育は大きく変わります。これから求められる教育は読み書き計算といった「知識・技能」だけではなく、「課題を発見し、情報を活用して課題を解決していく総合的な力」を育むことに変わり、この二一世紀型スキルと呼ばれる力は人口減少の著しいえらぶのような離島にこそ必要な力だとも言えます。こういう力は、それこそ『地域に貢献したい』という想いをカタチにすることで育まれるに違いありません。

ちなみに、そのひとつ目のプロジェクトとして企画したのが田皆小で実施した「学校にとまろう!」。中学生に一人から企画・運営をお任せしてみました。地域の人の助けを借りながら、小さなトラブル(課題)をしっかりと乗り越え、無事に終了。楽しい二日間を過ごすことができました。今度は自分のやりたいことで楽しく地域に貢献しながら二一世紀型スキルを身に付けてもらえたらうれしいなあ。



1_スクールキャンプを運営してくれた中学生達 2_昔はどんな遊びをしていたのかな? 3_みんなに見守られながら包丁に挑戦! 4_シードリーム東さんによるお話しでは浜の砂にたくさんのゴミが混じっていることがわかる実験も。5_岬祭りと盆踊りで司会を担当しました!